

授 業 科 目 名	保育実習指導Ⅱ	教 員 名	田川 一希 山下 愛実	免許・資格 との関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	
授 業 形 態	演習	配 当 年 次	4 年次前期	卒 業 要 件	保育士	選択必修
科 目 番 号	JIS401				こども音楽療育士	
単 位 数	2 単位				小幼コース	選択
					幼保コース	選択必修
科 目						
施 行 規 則 に 定 め る 科 目 区 分 又 は 事 項 等						
一 般 目 標	保育実習Ⅰa（保育所）を通して学んだ知識や技術等について振り返り、自己の学習課題及び保育実習Ⅰ以降に養成校で学んだ教科の内容をもとに、新たな実習の目標を設定し、総合的に保育をとらえる意識を持って保育実習Ⅱに臨めるようになることを目標とする。					
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育実践において必要とされる力を習得する。 3. 観察、記録及び自己評価等を通じた保育のプロセスについて、事例や演習を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の自己評価を行い、自身の課題や認識を明確にする。 					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「2. 教育者としての情熱を持ち、正しい倫理観と責任感を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 の 概 要	本講義は、保育実習Ⅰaの振り返りをもとに、保育実習Ⅱに臨む準備を行う。具体的には、実習目標の設定、実習日誌の書き方の見直し、保育指導案の立案・実践を行う。また、異年齢保育や子育て支援、保育士としての職業倫理等を保育所保育指針解説や事例を通して学ぶ。アクティブラーニングとして、振り返り、個別の質疑応答、グループディスカッションなどを取り入れる。					
授 業 計 画	<p>第1回：保育実習Ⅰaの振り返り① 保育実習Ⅰaの自己評価を行い、それぞれの反省をもとに、課題を明確化する。（目標5）</p> <p>第2回：保育実習Ⅰaの振り返り② 保育実習Ⅰaにおける学びの共有を行う。それぞれの学びの多かったエピソードを共有し、共感できる点、自分だったらどう対応するか、子どもの思い、疑問点などを考察する。（目標2,5）</p> <p>第3回：自然とかわる遊びの実践 保育実習Ⅱでの保育実践に向けて、季節を生かした自然と関わる遊びを体験する。体験後、グループごとに発達段階に応じた保育計画を議論する。（目標）</p> <p>第4回：保育実習Ⅱに向けての課題設定 第1,2回の振り返りから、保育実習Ⅱの自己課題を設定する。（目標1,5）</p> <p>第4回：実習日誌の書き方の見直し再確認 保育実習Ⅰaの実習日誌を見直し、書き方について再確認する。（目標3,5）</p> <p>第5回：3歳未満児の発達と遊び、保育指導案の作成方法 3歳未満児の発達と遊びについてまとめ、プレゼンテーションを行う。3歳未満児を対象とした保育指導案の書き方について、要点を再確認する。（目標2,3）</p> <p>第6回：3歳未満児を対象とした保育指導案の検討 3歳未満児を対象とした保育指導案を持ち寄り、グループで改善点等を議論する。（目標2,3）</p> <p>第7回：3歳以上児の発達と遊び、保育指導案の作成方法 3歳以上児の発達と遊びについてまとめ、プレゼンテーションを行う。3歳未満児を対象とした保育指導案の書き方について、要点を再確認する。（目標2,3）</p> <p>第8回：3歳以上児を対象とした保育指導案の検討 3歳以上児を対象とした保育指導案を持ち寄り、グループで改善点等を議論する。（目標2,3）</p>					

	<p>第9回：保育の記録方法 保育の記録方法として、エピソード記録やドキュメンテーション等について学ぶ。このうち、エピソード記録のポイントを詳しく学ぶ。</p> <p>第10回：エピソード記録の実践 子どもの姿を記録した映像を参照し、エピソード記録の実践を行う。グループごとにエピソード記録を持ち寄って視点を共有する。</p> <p>第11回：多様な保育ニーズ 延長保育、夜間保育、休日保育、一時保育等、多様な保育ニーズをテーマとして取り上げ、プレゼンテーションを行う。(目標4)</p> <p>第12回：他専門機関との連携 保育所と他専門機関との連携について、具体的な取り組みをグループごとにまとめ、プレゼンテーションを行う。(目標4)</p> <p>第13回：保育士の倫理観について① 児童憲章、全国保育会倫理綱領、保育所保育指針から保育の専門性や倫理観について学ぶ。(目標4)</p> <p>第14回：保育士の倫理観について② 事例をもとに、保育士として取るべき行動等を考え、グループごとにまとめる。(目標4)</p> <p>第15回：保育実習Ⅱの評価について、実習前の準備、実習中の注意事項や実習後の手続きについて保育実習Ⅱの評価の内容を知り、実習に生かせるようにする。実習に臨む前の心構え、準備物等の確認をする。また、実習中や実習後の手続きについて確認する。(目標1,5)</p> <p>定期試験</p>
<p>学生に対する評価</p>	<p>定期試験7050%、レポート提出3050%で評価する。60%以上を合格とする。 なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
<p>時間外の学習について</p>	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <p>事前学習：前回の授業内容を復習し、自分の知識としておくこと。理解不十分なことは次の授業で質問をすること。</p> <p>事後学習：講義内容について自分なりに整理し、次回の授業までに理解しておくこと。理解不十分な内容は次回の授業で質問をすること。</p>
<p>テキスト</p>	<p>特になし</p>
<p>参考書・参考資料等</p>	<p>『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館 『保育指導案大百科事典』 関仁志編著 一藝社</p>
<p>担当者からのメッセージ</p>	<p>大学での最後の実習となるため、明確な目標を持ち、将来の見通しを持って実習に臨めるようにしてください。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>田川 一希：授業時に伝達する。 山下 愛実：授業時に伝達する。</p>